

令和4年度（2022年度） 県立日立第一高等学校附属中学校 自己評価表

【別紙様式2】

<p>目指す学校像</p>	<p>本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する学校である。そのために、様々な学習機会を提供し、各教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな指導を行うとともに6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、次のような生徒を育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒 2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒 3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒 4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒 		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>【学習指導・進路指導】 【成果】 ・県学力診断のためのテストの県平均正答率（5教科合計）との比較で、3年生+96.5、2年生+118.1、1年生+121.8と各学年ともに大きく上回り、基礎・基本は定着している。各学年とも学力差が見られる傾向がある。 【課題】 ・「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善。（附属中メソッドの構築） ・発展的な学習や補充的な学習に対応する課外学習の工夫。</p>	<p>1 高い志の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間を見通した中高一貫校としての進路指導の充実（教務部、進路指導部） ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実（進路指導部、各学年） ・医学部進学等を意識した中高連携（進路指導部） 	<p>A</p>
<p>【生徒指導】 【成果】 ・基本的な生活習慣は定着傾向にあり、落ち着いた生活をしている。 ・生徒の自主性を尊重した指導を実施することで、生徒の自主的・自律的な態度が定着しつつある。 【課題】 ・特別な支援が必要な生徒に対する理解の推進と、指導体制の整備。 ・問題行動の未然防止及び早期発見、早期対応。</p>	<p>2 学力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直し（教務部、各教科） ・学力向上を図るICTを活用した授業づくり（教務部、各教科） ・先取学習や学習の深化など附属中学校の教育内容について教科会の定期的な開催（各教科） ・サイエンスリテラシーの充実（SSH・教務部） ・特別な支援を必要とする生徒や成績不振な生徒に関する組織的な支援（各学年） 	<p>A</p>
<p>【特別活動】 【成果】 ・学校行事や宿泊学習などにおいて、生徒の主体的な活動が見られる。また、部活動にも熱心に取り組んでおり、各種大会等で好成績を収めている。 【課題】 ・部活動運営方針の検討・実践。 ・生徒の自主的・自律的な態度を育む学校行事、委員会活動等の工夫。</p>	<p>3 豊かな人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的・自律的な態度を育てる特別活動や学校行事の充実（特活指導部、各学年） ・教育相談や面談を通じた生徒理解及び生徒・保護者支援（教育相談部、各学年） ・道徳の学習を通じて心の教育の推進（道徳主任、各学年） 	<p>A</p>
<p>【国際教育】 【成果】 ・イングリッシュタイムやグローバルコミュニケーション、海外語学研修等の実施により、英語に対する興味・関心が一層増している。英語の運用能力が伸びており、英検準2級以上の合格者率も向上している。 【課題】 ・ブリティッシュ・ヒルズ語学研修・海外語学研修の充実。 ・高校進学後の海外研修や留学等への啓発。</p>	<p>4 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育の成果検証（教務部・進路指導部） ・業務の精選や改善を通しての教職員の労働時間の状況の改善（各校務分掌） 	<p>B</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題							
国語	1 基礎・基本の確実な習得と活用力を育成する指導	1) 思考の可視化を通して、論理的思考力を高めるとともに、学び合いの場を設定する。	2	A	B	A	A	・読書活動や課題解決学習における図書館を活用した単元構成の工夫をする。 ・課外の内容や時期、個に応じた指導内容について検討し、継続的に支援できるようにしていく。 ・教科書と問題集の選定を検討する。					
		2) 目的や意図に応じて適切に書く場を設定し、表現力や思考力の深化を図る。	2	A					A				
		3) 相手の意見と関連づけながら、自分の意見を述べる方法を身に付けさせ、深まりのある話し合い活動を展開する。	2	A					A				
	2 読書活動と関連付けた指導の充実	1) 図書館の有効利用を位置付けた単元構成を工夫する。	2	B					B	B			
		2) 読書単元の指導過程や方法を工夫する。	1、2	B					A	A			
		3) 図書に触れる機会や活用場の充実を図るとともに、環境を整える。	2	B					A	A			
	3 個に応じた指導	1) 単元テスト・定期考査・模試等を分析し、学習状況を的確に把握する。	2	B					A	A			
		2) 学習状況に応じて、補充指導や発展学習を行う。	2	A					A	A			
		3) 面談や課外の実施等、個別指導ができる時間の確保に努める。	2	B					B	B			
社会	1 中高6年間を見通した指導計画の改善と活用	1) 小学校社会科及び生徒の実態を踏まえた指導計画の改善と、中高一貫教育に対応したカリキュラムの検討を進める。	2	A	A	A	A	・中高との連携をさらに密にして、6年間を見通してより深く学習に取り組めるように工夫していきたい。					
		2) 中高一貫教育に対応した教材・教具の整備を行う。	2、4	B					B	B			
	2 学習意欲を喚起し、基礎・基本の確実な定着を促す指導	1) ICT機器等を積極的に活用し、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の工夫を図る。	2	A					A	A			
		2) テキスト、単元テスト等を活用し、習得すべき知識・概念を明確にして、確実な習得を図る。	2	A					A	A			
		3) 生徒が予想を立て、見直しをもって行う問題解決的な学習の場を設定する。	2	A					A	A			
	3 社会的な思考力、判断力、表現力の育成を図るための指導	1) 複数の資料から必要な情報を集めて読み取り、要点を簡潔に文章で表す言語活動を取り入れた学習を行う。	2	A					A	A			
		2) ディベートなどにより、社会的事象の意味や意義を解釈し、表現する場を設定し、学び合いのできる学習を行う。	2	A					A	A			
	数学	1 学習意欲を高める指導	1) 課題や課題提示を工夫する。	2					A	B	A	A	・課題提示、提出ではクロームブック（ロイロノート）を活用した。生徒も操作に慣れ、提出状況も確認して意欲付けに役立てることができた。今後も継続する。 ・1、2年生の授業では、生徒の話し合い活動を中心に、教師は時間管理や補足説明などをする程度にして、生徒の活動時間を増やすように試みた。生徒が教え合って解決することが増えたため、今後も継続する。 ・今年度の新しい試みとして、2年生では、生徒の意識向上を目的として、授業の最後10分でハイレベル問題を題出した。生徒は自力で解決できるように考える様子が毎回見られた。次年度も継続する。 ・3年生では高校数学Ⅰをほぼ終わらせることができた。また、大学入試共通テストや難問にも挑戦し、生徒の学力向上につなげることができた。次年度も継続する。
			2) 数学的活動の充実を図る。	1、2					B				
2 基礎・基本の定着を図るとともに応用力の育成を図る指導		1) 生徒が気づける、解けると思えるように授業展開や説明を工夫する。	2	A	A	A							
		2) 生徒同士の話し合い・学び合いの場を充実させることで、基礎・基本の定着を図る。	2、3	A	A	A							
		3) 生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化・発展的な内容の学習も行う。	2	A	A	A							
3 個に応じた指導		1) 単元テスト、週末課題、課外等を実施することで、個々の学力向上に努める。	1、2	B	A	A							
		2) 生徒の実態を把握し、個に応じた支援が行えるようにする。	2	B	B	A							
		3) 生徒が質問しやすいような体制作り（放課後等の活用）をする。	2	B	B	B							
理科		1 「科学する心」の育成	1) 各分野の事物・現象に対する興味・関心を高める学習の場を設定し、知的好奇心や探究心を育む。	1、2	A	A	A	A	・科学への関心を高める授業の工夫を今後も継続して実践していく。 ・生徒が主体的に探求的な活動が行える授業の工夫を今後も継続して実践していく。 ・ノートだけでなく、PCを利用して表やグラフでまとめられるように継続して指導していく。 ・話し合いや発表の場を設定して、わかりやすく伝えるための経験を積み重ねていくことを実践していく。 ・発展的な内容を積極的に取り入れていく。				
	2 科学的思考力や表現力の育成	1) 課題解決学習により、生徒が主体的に探求的な活動を行えるようにする。	2、3	A	A								
		2) 観察や実験の結果について、表やグラフ等を用いて考察できるようにする。	2	A	A								
		3) 話し合いや発表の場を設定して、表現力の向上を図る。	2、3	A	A								
	3 高校の学習内容との系統性を重視した学習指導	1) 基礎・基本の定着とともに、発展的な学習を通して、高校の学習内容との系統性を重視した授業を展開する。	2、4	A	A					A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題						
保健体育	1 運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、知識や技能を身につける。	1) 各種目に応じた運動の学び方を理解させる。	2	A	A	A	単元にもよるが、クロームブックの活用方法をさらに考えていきたい。体育館のネット環境次第ではあるが、体育館など室内での取り組みを中心に改善を図りたい。 授業の時間数が少なく、単元計画がうまくいかないことがあった。未履修にならないよう、次年度はまた年間計画を練り直していきたい。					
		2) 基礎・基本の定着を図るためにドリルゲームやタスクゲームを取り入れる。また、ICTを取り入れて動作を視覚化する活動を試みる。	2	B				B				
		3) グループ学習・学び合いの時間を取り入れ、公正に取り組んだり、協力したりする態度を育成する。	2	B				A	A			
		4) 規律ある行動やあいさつ、マナー、ルールの厳守。	2	A				A	A			
	2 生涯を通して、自らの健康を管理できる能力を育成する。	1) 健康な生活と疾病の予防①、心身の発達と心の健康について理解させる。	2	A	A	A						
		2) 健康な生活と疾病の予防②、傷害の防止について理解させる。	2	A	A	A						
3) 健康な生活と疾病の予防③、健康と環境について理解させる。		2	A	A	A							
芸術	音楽 1. 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。	1) 基礎的・基本的な奏法の確認時間を十分に確保する。	2	A	A	A		・感染症対策の観点から、歌唱の授業については実施時数を削減せざるを得ず、器楽とのバランス配分に苦労した。(音楽) ・カセットの導入により、授業が思ったように進まず、鑑賞の時間を削ることになってしまった。60分授業には対応できたが、単純に授業時数が減っていることへの対応が難しい。次年度改善して、鑑賞の時間の充実を図りたい。(音楽・美術) ・ICTの積極的活用は年間を通して行うことができた。次年度も継続的に行いながら、新しい教材の研究を行いたい。(美術)				
		2) 歌唱・器楽・創作をバランスよく取り扱う。	2	B					A	A		
		3) グループ活動を充実することで他者の多様な音楽表現に気付かせる。	2	A					A	A		
	2. 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	1) 我が国の伝統的な音楽文化を含めた、多様な鑑賞教材を用意する。	2	A					A	A		
		2) 鑑賞した楽曲に対して批評活動を行うことで、主体的な鑑賞態度を養うとともに他者の多様な感じ方に気付かせる。	2	B					B	B		
		1) 基本的な技術や表現力を身につけさせることで創造の楽しさに目覚めさせる。	2	A			A		A			
	美術 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる。	2) 美術の幅広い鑑賞活動を充実させる。	2	B			B		B			
		感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	1) 発想力を培い、想像力豊かに活動させる。	2			A		A	A		
			2) ICTの効果的な活用や言語活動を充実させる。	2			A		A	A		
	英語	1 総合的なコミュニケーション能力を育成する。	1) 言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。	2			B		B	A	・クロームブックを使い、個に応じて効果的に学習していける指導法を考えたり学習教材を提案したりする。	
			2) ICTを活用し、クロームブックを取り入れた授業展開を工夫する。				B					B
			3) 授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動(自己表現活動)を実施する。	2			A					A
2 ワークシート等の工夫を通して、言語活動における基礎基本の定着を図る。		1) ワークシート類の定期的な提出や評価と共に、効果的に生徒へフィードバックする。	2	A	A	A						
		2) 辞書やICTの活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	2	B	B	B						
		3) 自己の学習状況を振り返り、積極的に授業に参加する態度を養う。	2	B	A	A						
3 言語活動を通して異文化交流、異文化理解をしていく態度を育てる。		1) 教科書だけでなく、様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	2	B	A	A						
		2) ALTとのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	2	B	B	B						
		3) 学校行事中での英語活動や総合的な学習と連携した活動を実施する。	2	B	A	A						
技術・家庭科	1 生徒の学習意欲を高める学習指導	1) 生徒の興味・関心に答える学習内容を工夫する。	1	A	B	A	・クロームブックを有効に使った調べもの学習や発表の時間を組み入れる。 ・実習の時間を計画的に進め、時間配分にも工夫する。					
		2) 実験や実習を効果的に行い、理解の定着を図る。	1	B				A	A			
		3) グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	2	A				A	A			
	2 科学的な理解と技術の習得	1) さまざまな事象を科学的にとらえる授業を展開する。	2	B				B	B			
		2) 実験・実習を行い、基本的な技術を身につける。	1、2	B				A	A			
		3) 学習ノートを活用し、学習したことの定着を図る。	1	A				A	A			
	3 生活に生かす力の育成	1) 長期休業などに、学んだことを実生活で実践するための課題を出す。	2	B				A	A			
		2) 生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	1、2	B				B	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題					
教務部	1 教育課程の適切な運用と授業時間の確保に努め、生徒一人一人が確かな学力を身につけ、自己実現を果たせるようにする。	1) 授業時間の確保に努める。特に、授業変更を積極的に行い、自習・填補の減少に努める。	2	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・60分授業の変更に伴う問題(授業交換・授業バランス・質と量)について検討・検証・変更する。 ・中高一貫校である本校の中高連携を意識した教育課程について検討する。 ・T Tや習熟度別少人数授業を実施し検証する。 ・3年間の学習計画の充実だけでなく、6学年の学習計画も視野に入れて計画を検証していく。 			
		2) 生徒の学力の現状を把握し、教育課程の適切な運用を図る。	2	A					A	A	
		3) T Tや習熟度別少人数指導を組み入れながら、確かな学力を身につけさせるように努める。	2、3	A					A	A	
	2 学校行事を適正に配置し、生徒一人一人が充実した学校生活を過ごせるようにする。	1) 高校との連携をはかりながら学校行事の適正配置・運営に努める。調査時期を見直すとともに、授業時数のバランスを確保する。	1、2	B					B	B	
		1) 定期考査等の適正処理に努め、公正な評価を行う。	2	A					A	A	
	3 各部・学年・教科との連携を緊密にし、校務を円滑に推進できるよう努める。	2) 出席状況を正確に把握して、各学年や生徒指導部との連携を図る。	2、3	A					A	A	
		1) 教科・科目の目標を設定し、学習シラバスに基づいた検証を行う。	2	B					B	B	
	4 中高一貫校としての創造的な授業をめざし、授業方法の改善や研究に努める。	2) 「3年間の学習計画」を充実させる。	1、2	B					A	A	
		3) 公開授業の拡充とICTの積極的な活用に努め、職員のスキルアップに資する。	2	A					A	A	
		1) 進路資料の作成。	1、2	B					B	B	
	進路指導部	1 適切な進路情報を提供し、進路意識の高揚を図る。	2) 進路ガイダンス・HRセミナー・進路講演会等を通して、進路意識の高揚を図る。	1					A	A	A
			3) 保護者面談等で、定期的な進路情報を提供する。	2、3					A	A	A
1) 学習・生活実態調査やキャリアパスポートを活用し、生徒の状況を把握するとともに、情報を提供する。			1	B	B	B					
2 3年間（6年間）を見通した系統的な進路指導に努める。		2) 自然観察や出前授業を通して、サイエンスリテラシーの向上を図り、科学する心を育む。	2	B	A	A					
		3) 高校との連携を図りながら、共通する進路行事を計画する。	1、2、4	A	A	A					
3 各学年及び各教科と密接な連携を図り、生徒の自己実現を支援する。		1) 外部模試の情報収集と結果の分析と活用。	2、3	A	A	A					
		2) 職業体験等での学年との協力体制の確立。	1	B	B	B					
		3) 進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むように情報を提供する。	2、3	B	B	B					
保健厚生部		1 生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	1) 生徒の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	3	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスコントロール力を育むための健康教育のあり方を検討する。 ・災害時の対応マニュアルの見直しと生徒各自の通学路の危険箇所確認等について意識啓発の機会を設ける。 ・食物アレルギーのある生徒への対応を引き続き慎重に行う。 		
	2) 健康診断、健康教育は学校医及び学校歯科医と相談し、円滑に行う。		3	B	B						
	3) 日常的な保健室利用の生徒について、担任、保護者との緊密な連携を図る。		3	A	B					A	
	4) 心のケアが必要な生徒について、担任、教育相談部と連携を図る。		3	A	B					A	
	5) 学校保健委員会と連携し、学校保健活動の推進を図る。		3	B	B					B	
	2 安全で清潔な学習環境の整備と美化に努める。	1) 清掃指導の徹底を図り、学習環境の衛生管理と美化に努める。	3	A	B					B	
		2) 防災機器の点検と管理、並びに生徒達の危機管理意識の高揚に努める。	3	A	B					B	
	3 正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、楽しく食事ができるようにする。	1) 全職員の共通理解のもと、適切な指示をしながら給食指導を行う。生徒の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	3	A	A					A	
		2) 給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	3	A	A					A	
		3) 職員も一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導や望ましい人間関係の育成を図る。	3	B	A					A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題					
生徒指導部	1 学校生活のきまりの確立と規範意識の高揚に努める。	1) 生活のきまりの作成及び共通理解を図る。	3	B	A	B	B	A	・後期の生徒総会で決定(改正)した校則についての変更点が新年度の生徒手帳に反映することが期日的に不可能なため、新入生や保護者が誤解することないように別紙で文書を配付する必要がある。 ・校則について、職員室で季節ごとにチェックする点などを掲示するなどして、職員間の共通理解を図りたい。 ・携帯電話の使用や駅構内での行動の仕方などマナーを守った生活ができるように啓発していく必要がある。		
		2) 学級活動や学年集会等を利用し、きまりの確認や大切さについて理解を図る。	3	A						B	B
	2 マナーの向上に努める。	1) 「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	3	A						A	A
		2) 学級活動や道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する活動を行う。	3	A						A	A
	3 安全教育の推進と事故防止に努める。	1) 登下校時の立哨指導・巡回指導の実施	3	A						B	A
		2) 交通安全教育の徹底	3	A						A	A
3) 薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。		3	A	A	A						
渉外部	1 保護者との相互理解を進め、より円滑なPTA活動を行う。	1) 新入生父母と教師の会の運営の充実やPTA総会など保護者参加行事への参加促進を目指した積極的企画を行う。	4	B	B	A	B	・年度末に、学年に応じたPTA進路説明会を実施した。会場を分けたり、オンラインを導入したりして、コロナ禍でも少しずつ、保護者の参加行事が増えてきた。			
		2) ホームルームセミナーの企画や運営の支援充実に努める。	1	B					A	A	
		3) 広報紙への掲載内容を検討し、保護者の意識高揚を図る広報誌の発行支援を行う。	1	A					A	A	
	2 各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成を支援する。	1) 総務委員会・全体委員会での審議の活発化と共通理解の推進を図り、決定事項を各専門委員会の活動に反映させるための委員会間の調整を密に行う。	4	B					B	B	
		1) 中学生、高校生両者が、共存できる部活動の方法を模索する。	3	B					B	B	
特活部	1 部活動の活発化	2) 部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	3	B	A	B	A	・部活動については生徒数に対して設置部活動数がそもそも多すぎであり、1部活動につき重複しない2名以上の教員がつけていないため、少なくした方が良い。⇒新入生オリエンテーションで「部員が少なく困っている」ということを訴える部活動が多い。			
		3) 部顧問の連携を図り、学校全体としての指導体制をより充実させる。	3	B	B	B					
		2 主体性のある生徒会活動の推進	1) 生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	1	B	B			B		
	2) 中学生、高校生両者が、協力して運営できる生徒会活動のあり方を模索する。		1	B	A	A					
	3 学校行事の活性化	1) 中学生、高校生合同実施の学校行事において、中学生の身体面や精神面に配慮した運営を行う。	1	A	A	A					
		2) クラスマッチや体育祭を成功に導く。	1	A	A	A					
	図書部	図書館利用の活性化と読書活動の充実。	1) 活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	1、2	B	B			A	A	・読書活動や課題解決学習など、各教科等での図書館利用の推進に努める。
2) 部・教科等と指導の連携を図り、豊かな読書活動を目指す。			1、2	B	B		B				
3) 図書館内の環境整備とOA化を推進する。			1、2	A	A		A				
教育相談部	生徒の健全な人間形成と自己実現の促進に努める。	1) 個別面談やQUTテストを実施し、迅速な生徒の状況把握をする。	3	B	B	A	B	・年2回のQUTテストを実施し、生徒の学級満足度や学校生活意欲の変化を把握することができた。 ・SCの利用をためらう生徒もいるので、日常の声掛けに努め、自ら相談できる力を育てたい。			
		2) SCや担任・学年等と連携しながら、生徒及び保護者へ適切な支援を行う。	3	B					A	A	
情報部	1 校内ネットワーク快適利用の促進	1) 校内ネットワークを快適に利用してもらえるように、様々な意見を集約し、研究を行う。	2、4	A	A	A	A	情報発信の更なる充実を目指し、教員間の情報共有を多く行いたい。			
	2 情報発信の充実	1) ホームページ、携帯用掲示板を用いた情報発信を積極的に行う。	1	A					A	A	
	3 学校管理支援システム利用の促進	1) 学校管理支援システムにおいて、高校や他の校務分掌との連携をとり、より効率的かつ広範な利用を促進する。	3	A					A	A	
サイエンス部	1 「科学する心」の育成	1) 「科学研修会」等の行事の参加や地域の人材の活用を通して、科学に対する興味・関心を高める。	2	A	A	A	A	・中高の連携を今後も継続して行う。 ・先輩の研究発表会から学び、自分の発表に活かすということを今後も計画的に組む。 ・科学的ディスカッションができるリーダーの育成をするために、どのような視点で物事を考えるのか継続して指導する。			
		2) 校内外の研究発表会等を通して、知的好奇心や探究心を高める。	1、4	A					A	A	
	2 科学的ディスカッションができるリーダーの育成	1) 総合的な学習の時間等で科学研究の仕方の習得及び研究実践をすることを通して、中高一貫したサイエンスリテラシーの育成を図り、リーダーシップを発揮できるようにする。	2、4	A					A	A	
		2) グローバルコミュニケーションや語学研修を中心とする教科横断的な学習の充実を通して、国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力の向上を図る。	2、4	A					A	A	
		3) 「白雲ネイチャースクール」等、中高一貫校の特性を生かして高校と連携を図り、サイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	1、4	A					A	A	
	3 SSH活動の活性化	1) 「SSH科学研究発表会」を実施して、校内外に本校の活動を広めるとともに、HPなどを活用し、広報活動に取り組む。	4	B					A	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度への課題							
第1学年	中学生としての自覚をもたせ、基本的な生活習慣を確立するとともに、何事にも意欲的に取り組み、責任をもって行動できる態度を育成する。	1) 生徒の出欠状況の把握に努め、家庭との連携を図りながら、楽しく安全な学校生活が送れるようにする。	1、3	A	B	A	A	・生徒の出欠状況を把握し、その日のうちに欠席・早退者への家庭連絡を行った。保護者の協力も得られ、生徒理解に役立てることができた。今後も継続していく。 ・学年行事では、予定していた宿泊はできなかったが、日帰りで東京方面へのオリエンテーション校外学習を実施した。東京大学では、附属中学業生の現役東大生から直接話を聞くことができた。学習や学校生活への意欲を高めることができた。さらに将来の進路への考えが深まるように、キャリア教育の時間の確保が課題である。 ・個別面談やクラスルームのコメントのやりとりなどを通して、生徒の不安解消に努めることができた。次年度も、学年全体で生徒を見守ることができるようになっていく。また、S・Cの効果的な活用を図りたい。					
		2) 進んで清掃活動に取り組む態度を育成し、生徒の快適な生活環境を維持する。	1	A					A				
		3) 生徒一人一人の役割を明確にし、諸活動に責任をもたせるとともに、達成感を味わわせる。	1、3	B					A				
	自主的な学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の確実な定着を図るとともに、将来への夢をもたせる。	1) 授業に主体的に参加する態度を養い、家庭学習習慣の確立に努める。	2	B					A				
		2) オリエンテーション合宿や高校生との交流を通して、幅広い見地から将来の進路について考えさせる。	1	A					B				
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努める。	2、3	B					A				
	部活動や学校行事、特別活動において、主体的に活動しようとする態度を養う。	1) 部活動や学校行事、特別活動に進んで取り組む態度を育成する。	3	A					A				
		2) 集団に対する帰属意識を高め、一人一人が意欲的に活動できるよう支援する。	1	A					A				
	自然科学に対する興味関心を高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	1) 自然科学に対する興味関心を高め、探究心や科学的思考力を育成する。	2	B					A				
		2) 国際交流事業や高校生との交流を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	1、2	B					B				
	第2学年	中堅学年としての責任と自覚を持ち、何事にも積極的に取り組むとともに、仲間と協力してやり遂げる態度を育成する。	1) 生徒の心身の健康に留意し、家庭や関係職員との連携を密にしながら、楽しく充実した学校生活が送れるようにする。	1					A	B	A	A	・担任を中心とした学級経営に年度当初から継続して取り組み、生徒の実態や実情に合わせた生徒指導、生活指導を行い、生徒一人一人が安定した学校生活が送れるように配慮した。次年度も継続する。 ・今年度から清掃活動が週2回程度に変更され、ゴミや汚れなどが分かりやすく、清掃した結果が目に見えるようになった。しっかりと取り組むように、声かけ指導などを継続する。 ・総合的な学習の時間ではグローバルコミュニケーションでSDGsについてまとめ、英語で説明や提案ができるように指導した。学習したことを今後の生活にしっかりと役立てるように、声かけていく。 ・部活動では2年生主体になり、顧問や部活動指導員の指導のもとで、自分を中心になって活動し、結果につなげることができた。生徒がさらに高みを目指して活動できるように支援する。
			2) 進んで清掃活動に取り組む態度を育成し、生徒の快適な生活環境を維持する。	1					B				
3) 生徒一人一人が主体的に活動できる場を設定し、諸活動に責任をもたせるとともに、達成感を味わわせる。			1	B	A								
自主的・計画的な学習環境づくりの支援を通して、学力の向上を図るとともに、将来の夢や生き方について考えさせる。		1) 「生徒用手帳」等を用いて学習状況を把握するとともに、個に応じた支援の充実を図る。	3	A	A								
		2) 宿泊学習やホームルームセミナー・職場見学等の行事を通して、将来の生き方や適性について考えさせる。	1、2	B	A								
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努めるとともに、関係職員や関係機関との連携を密にする。	3	B	A								
部活動や学校行事、特別活動において、後輩の支援をしながら主体的に活動しようとする態度を養う。		1) 部活動や学校行事、特別活動等において、生徒が主体となって活躍する場を設ける。	1	A	A								
		2) 下級生に対する思いやりの心もち、常に全体の状況を見ながら適切に判断し、進んで行動できるよう支援する。	1	B	B								
自然科学に対する興味関心を高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。		1) 科学講演会や「総合的な学習の時間」（サイエンスリテラシー）等を通して、探究心や科学的思考を深める。	1、2	B	B								
		2) プリティッシュヒルズ宿泊学習や「総合的な学習の時間」（グローバルコミュニケーション）等を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	1、2	B	B								
第3学年		最高学年としての責任と自覚を持ち、何事にも意欲的に取り組むとともに、粘り強くやり抜く態度を育成する。	1) 生徒の心身の健康に留意し、家庭や関係職員との連携を密にしながら、楽しく充実した学校生活が送れるようにする。	1	A	B	A	A	・職場体験が実施できなかったが、高校進路指導部と連携した進路学習会や希望制の高校生や卒業生との座談会への参加、高校進路たよりを活用した進路指導などを充実させ、自分の将来について関心を高めることができた。 ・個に応じた支援体制を確立させるために、個別面談やGoogle classroomでのMeet面談等を通して教育相談の充実を図り、生徒の心に寄り添った支援に努めた。S・Cと全中学生との面談が可能になるような人数と体制の確保が急務である。 ・高校と合同の白壁祭、3年ぶりの国内語学研修の実施などにおいて、実行委員会を中心に学年の生徒一人ひとりが主体的に行動したり、活躍したりして、達成感や自己肯定感を高めることができた。コロナ禍での他学年との交流の場の設定が課題である。 ・配慮を要する生徒の情報について新高校1年次の担当への引き継ぎをしっかりと行い、生徒がスムーズに新年度のスタートを切れるよう支援する。				
			2) 進んで清掃活動に取り組む態度を強化し、生徒の快適な生活環境を維持する。	1	B								
	3) 生徒一人一人が主体的に活動できる場を設定し、諸活動に責任をもたせるとともに、達成感を味わわせる。		1	A	A								
	自主的・計画的・発展的な学習活動の支援を通して、学力の深化と向上を図るとともに、将来の夢や生き方について具体的に考えさせる。	1) 「生徒用手帳」等を利用して生活・学習状況を把握するとともに、自律の精神の育成とに応じた支援の充実を図る。	3	B	A								
		2) 職場体験、進路ガイダンス、各種セミナー等の活動を通して、将来の生き方や適性について考えさせる。	1、2	B	A								
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努めるとともに、関係職員や関係機関との連携を密にする。	3	A	B								
	部活動や学校行事、特別活動において、リーダーシップを発揮し、主体的に活動しようとする態度を養う。	1) 部活動や学校行事、特別活動等において、生徒が主体となって活躍する場を設ける。	1	A	A								
		2) 下級生に対する思いやりの心もち、常に全体の状況を見ながら適切に判断し、進んで行動できるよう支援する。	1	B	A								
	自然科学に対する興味関心をより一層高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	1) 科学講演会や「総合的な学習の時間」（サイエンスリテラシー）等を通して、探究心や科学的思考を深める。	1、2	A	A								
		2) 海外語学研修や「総合的な学習の時間」（グローバルコミュニケーション）等を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	1、2	B	A								

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分